# 佐竹先生を偲ぶ

田島　義博

3年少し前，ひょうたんから駒のような形で，私が経済学部長になった時，定年で学習院をお辞めになったばかりの佐竹先生から，励ましのお葉書を頂いた。思いもしなかった学部長だっただけに，抱負も方針も，それに自信も全くなくて，正直な話，途方にくれていた私には，佐竹先生のお葉書には，大へん勇気づけられた。その後，一度か二度，電話でお話をしたことがあったように記憶しているが，それ以後，私の方も多忙に紛れて失礼を重ねていた。

ところがこの4月のある日，突然，院長室から佐竹先生がお悪いようだと聞かされ，すぐ島野先生にも内々にお知らせしておいた。何でも，気管支鏡検査の時に麻酔をかけられたのの後遺症で，微熱が抜けないまま，現在は呼吸が難しくなっているということであった。そんな経緯であるから，大事に至ることはなく，いずれ快癒されると考えていたが，その後すぐ先生の訃報に接することになってしまった。学習院ご在勤の頃から，ご病弱ではあったが，検査が契機で大事に至るとは，返す返すも残念に思えて仕方がない。

佐竹先生とは，学習院で25年間ご一緒させて頂いた。思えば長い年月である。私は昭和38年，経済学部創設のための要員の1人として，当時の政経学部に専任講師として採用されたが，私の専門は流通であり，先生の交通論とは接点が多いことから，何かと目をかけて頂いた。共通の知己も，学界には少なくなかった。先生のご趣味が写真であることは，学部内で知らない人はいないと思うが，旅行もお好きだったようである。先生とは二度，思いがけないところで，ばったりお会いしたことがある。一度は箱根仙石原の観光ホテルであった。私は疲れた時の静養や原稿書きに，このホテルを20年来利用していたが，ある日，ロビーで先生と全く偶然にお会いした。軽装で，例の如く，カメラを肩に下げておられたが，お聞きすると，先生もまた，このホテルを定宿にしておられるとのことであった。

もう一回は，ローマの中央駅前のホテルであった。交通関係の調査でお出でになっているとのことだったが，先生の学風の1つの特徴は実証性であって，おそらく，先生はそのようにして，いろんな地域の交通事情を，ご自身の足で歩いて調査されていたのだろうと思う。お互いグループ行動の身だったので，ゆっくりお茶を飲むという時間もなく，立ち話のままお別れしたが，先生とお別れする今，不思議にローマでの先生とのそんな別れ方が，私の思念の中に浮ぶ。どこかで先生とばったり会うことも，もうないのだなと考えると，改めて先生のご逝去が実感される。合掌。